

第一章 没入傾向について

没入傾向とは、自分のことにばかり注意が向きやすく、その状態を長く引きづってしまいやすいかどうかの傾向である。

第二章 開示状況について

自己開示とは、self-disclosure の訳であり、自己を他者を開くことである。この自己開示は状況によって詳しくされるか、表面的にされるか異なっている。

第三章 没入傾向と開示状況に関する質問紙調査

第一節 目的

この研究では、没入尺度と開示状況質問紙および意見相違時の対処法略項目を用いて、考え込みやすさとある状況における自己開示について調査し、「①没入傾向の高い人は自己開示が低い」「②没入傾向、自己開示、意見相違時の対処法には性差がある」「③意見相違時の対処法は、性別、年齢、没入傾向の高低で違いがある」という仮説を検証する事を目的とした。

第二節 方法

「没入尺度」、「開示状況質問紙」、および「意見相違時の対処方略項目」から構成された質問紙を配布し、大学生 200 名（男性 59 名、女性 141 名）に回答してもらった。

第三節 結果

(1) 没入傾向について

性差は見られなかった。自己没入と外的没入には相関があった。

(2) 開示状況について

性差は見られなかった。社会的開示、非日常的開示では得点が低かった。

(3) 意見相違時の対処法略項目

年齢によって対処パターンに違いが見られた。性差は項目によっては見られた。

(4) 没入傾向と自己開示の相関

外的没入と家族的開示にのみ相関が見られた。

(5) 没入傾向と意見相違時の対処法略項目

没入傾向得点の高い群と低い群では、対処法に大きな差はなかった。

第四節 没入傾向と自己開示、意見相違時の対処法略項目についての考察

「①没入傾向の高い人は自己開示が低い」

没入傾向の高さと自己開示しやすいかは関係がなかった。

「②没入傾向、自己開示、意見相違時の対処法には性差がある」

考え込みやすさ、自己開示、対処法は男女に限らず人それぞれといえる。

「③意見相違時の対処法は、年齢、没入傾向の高低で違いがある」

年齢では違いが見られ、自分の意見に対して自信があるか無いかによって異なってくるのではないかと考えられる。没入傾向の高さによって、対処法には違いが無い。